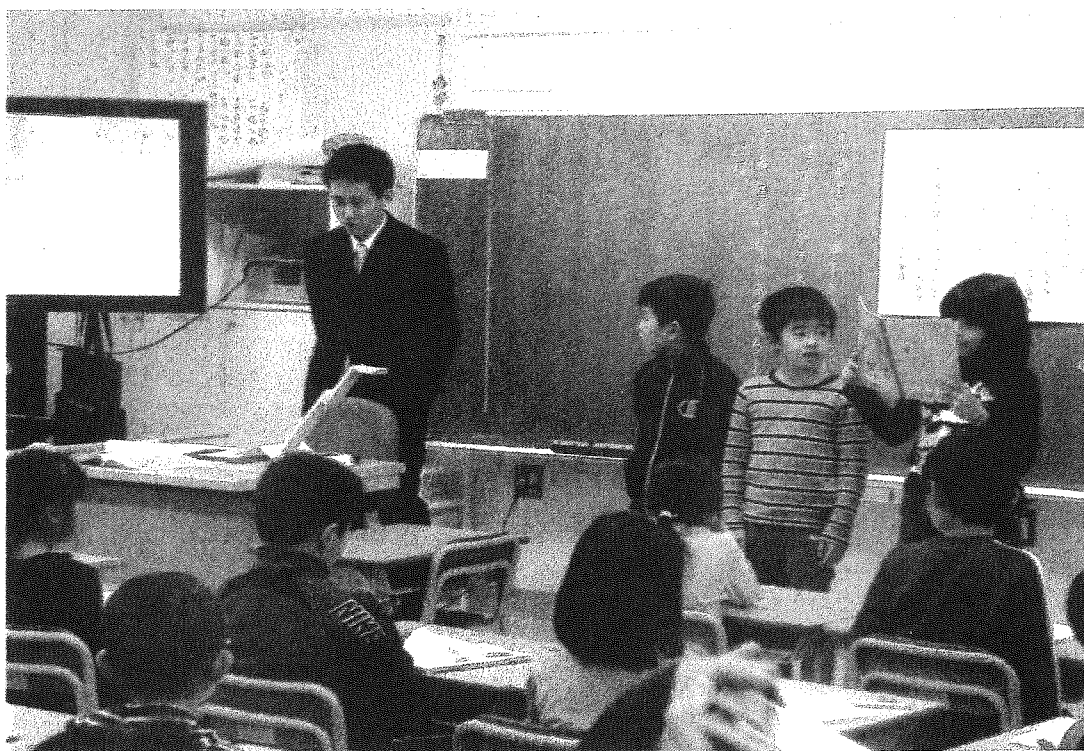


研究紀要 第48号

＜3ヶ年継続研究～3年次＞

「基礎・基本を身に付け、主体的に
学習に取り組む児童生徒の育成」
～ わかる喜びを味わわせる学習指導の工夫 ～



平成26年 3 月

室 蘭 市 教 育 研 究 所

研究紀要の発刊にあたり

室蘭市教育研究所長 高見 恭介

市内各校の校長先生をはじめ教職員の皆様におかれましては、日頃より、本研究所の事業に対するご理解とご協力をいただき、心より感謝を申し上げます。

さて、グローバル化、知識基盤社会化など、社会情勢がめまぐるしく変化する中、子どもたちの「生きる力」をいっそう育むことが求められています。

これからの時代の要請に応えるために、室蘭市教育委員会では「21世紀を切り拓く心豊かで主体的に学びつづける人づくり」を教育推進の目標に掲げ、「確かな学力、豊かな心、健やかな体」のバランスのとれた育成に努めるとともに、その具体化を図るための「室蘭市学力向上基本計画」(平成23年6月)や「室蘭市いじめ問題総合対策」(平成24年12月)を策定しております。

室蘭市教育研究所といたしましても、このような現状を踏まえ、研究主題「基礎・基本を身に付け、主体的に学習に取り組む児童生徒の育成」を掲げ、平成23年度より3カ年計画で研究部、事業部、調査部の3つの組織に分かれの実践研究や教員研修の充実に努めてまいりました。各部の具体的な取組といたしましては、研究部においては基礎的・基本的な学習内容の確実な習得とそれらを活用する力の育成を目指し、仮説検証による公開授業研究会を開催したほか、事業部では教育の今日的な課題や教職員のニーズに応じた各種研修講座の開催、調査部では児童生徒の生活・学習習慣の醸成にかかわる各種リーフレットや手引き等の作成とその効果的な活用についての調査研究を行ってまいりました。このたび、これらの実践研究の成果を研究紀要として取りまとめることができました。ぜひご一読いただき、忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸いです。

次年度につきましては、これまで取り組んできた研究の成果と課題を踏まえ、「第2期室蘭市学力向上基本計画」に示されております室蘭市教育研究所の役割をしっかりと果たすことができるよう、新たな研究主題の設定や、研究内容、研究組織等の工夫・改善に努めてまいりたいと考えております。

いずれにいたしましても、各学校との連携を密にしながら、室蘭の教育の充実・発展に資する事業の推進に努めてまいりますので、今後ともご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりにになりましたが、ご多用の中、研修講座及び公開研究授業においてご指導・ご助言くださいました講師の皆様にご心より感謝申し上げ、研究紀要発刊の挨拶とさせていただきます。

目 次

◎ 発刊にあたり

室蘭市教育研究所 所長 高 見 恭 介

I 研究の概要

- 1 「研究のねらい」・研究主題 P 1
- 2 めざす児童生徒像
- 3 研究仮説
- 4 研究内容
- 5 研究の事業
- 6 研究の推進計画
- 7 研究の全体構想 〈資 料〉「学習指導案の形態」について

II 「研究部」の実践研究

P 1 5

- 1 「第 1 部会」の研究 (15~31)
 - (1) 目指す児童生徒像と研究仮説
 - (2) 研究内容 1 「既習事項を活かした指導過程の工夫」
 - (3) モデル授業
 - (4) 仮説検証のサイクル 1
 - (5) 公開授業
 - (6) 仮説検証のサイクル 2 学習指導案
- 2 「第 2 部会」の研究 (32~52)
 - (1) 目指す児童生徒像と研究仮説
 - (2) 研究内容「学習成果を実感できる言語活動の工夫」
 - (3) モデル授業
 - (4) 仮説検証のサイクル 1
 - (5) 公開授業
 - (6) 仮説検証のサイクル 2 学習指導案

III 「事業部」の実践研究

P 5 3

- 1 「事業部」の研究
 - (1) 事業の研究方針および研究内容
 - (2) 事業の計画
- 2 「研修講座」の概要
 - (1) 研修講座
 - (2) 次年度への展望

IV 「調査部」の実践研究

P 6 3

- 1 「調査部」の研究
- 2 「家庭と学校の連携による学習・生活習慣の醸成」に関わる手立ての概要
 - (1) 児童生徒の学習・生活習慣に関わる実態の把握と分析
 - (2) リーフレット「家庭教育のすすめ」及び「家庭教育のてびき」〈資料〉 「学習・生活習慣の傾向」(小学校・中学校) ・ 「家庭教育のすすめ」

V 研究奨励校・研究指定校における研究実践

P 7 3

- 1 学力向上事業に関わる研究奨励校 (73~90)
 - (1) 室蘭市立八丁平小学校
 - (2) 室蘭市立本輪西小学校
 - (3) 室蘭市立翔陽中学校
- 2 パイロットスクール事業に関わる研究指定校 (91~108)
 - (1) 室蘭市立絵鞆小学校
 - (2) 室蘭市立桜が丘小学校
 - (3) 室蘭市立東明中学校

◎ あとがき

室蘭市教育研究所 副所長 小 林 俊 文

平成 25 年度「室蘭市教育研究所」所員等一覧

I 研究の概要

<はじめに> 「研究のねらい」

1 研究主題

2 めざす児童生徒像

3 研究仮説

4 研究内容

5 研究の事業

6 研究の推進計画

7 研究の全体構想

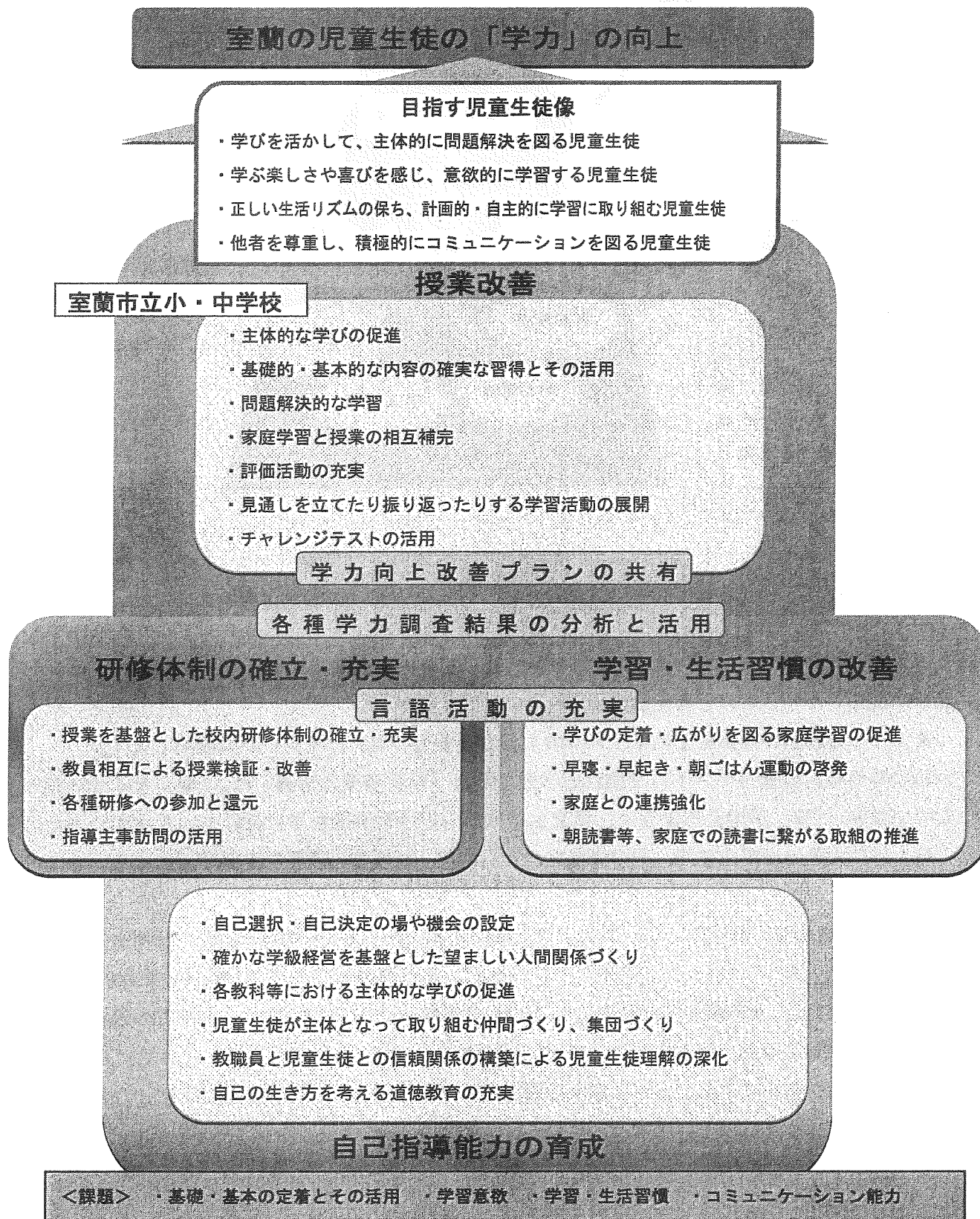
<資料> 「学習指導案の形態」について

I 研究の概要

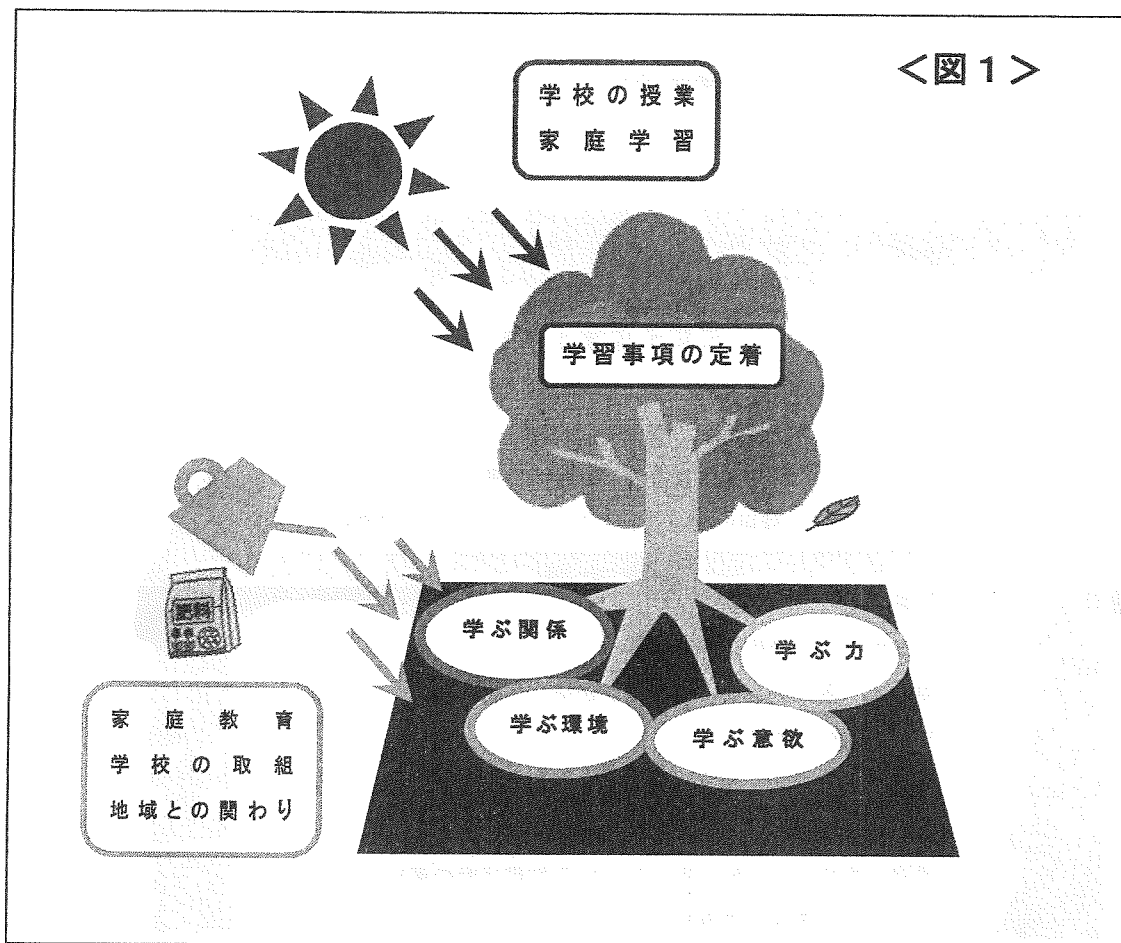
○ 研究のねらい

平成23年度より室蘭市の教育推進目標が「21世紀を切り拓く心豊かで主体的に学びつづける人づくり」と改訂され、当面3カ年の室蘭市学力向上に関わる基本計画をが策定されたことから、室蘭市教育研究所として本計画に基づく新たな教育を実践・研究していくことにした。

(1) 室蘭市の学力向上基本計画全体構想



(2) 室蘭市の学力向上の考え方



(※図1：大阪大学大学院人間科学部 志水宏吉教授の学力の樹を参照)

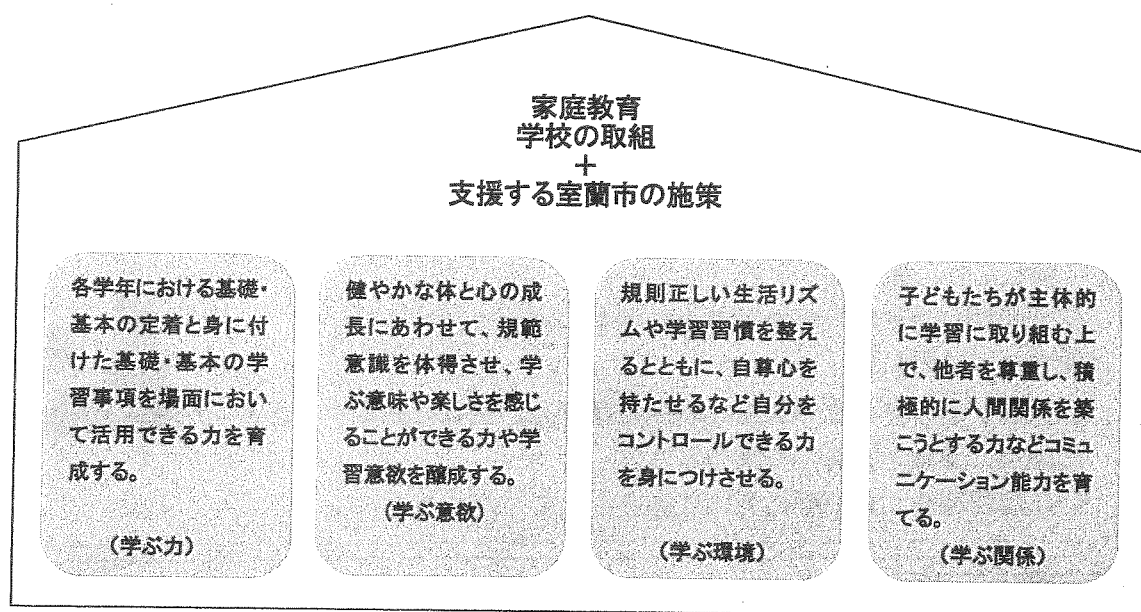
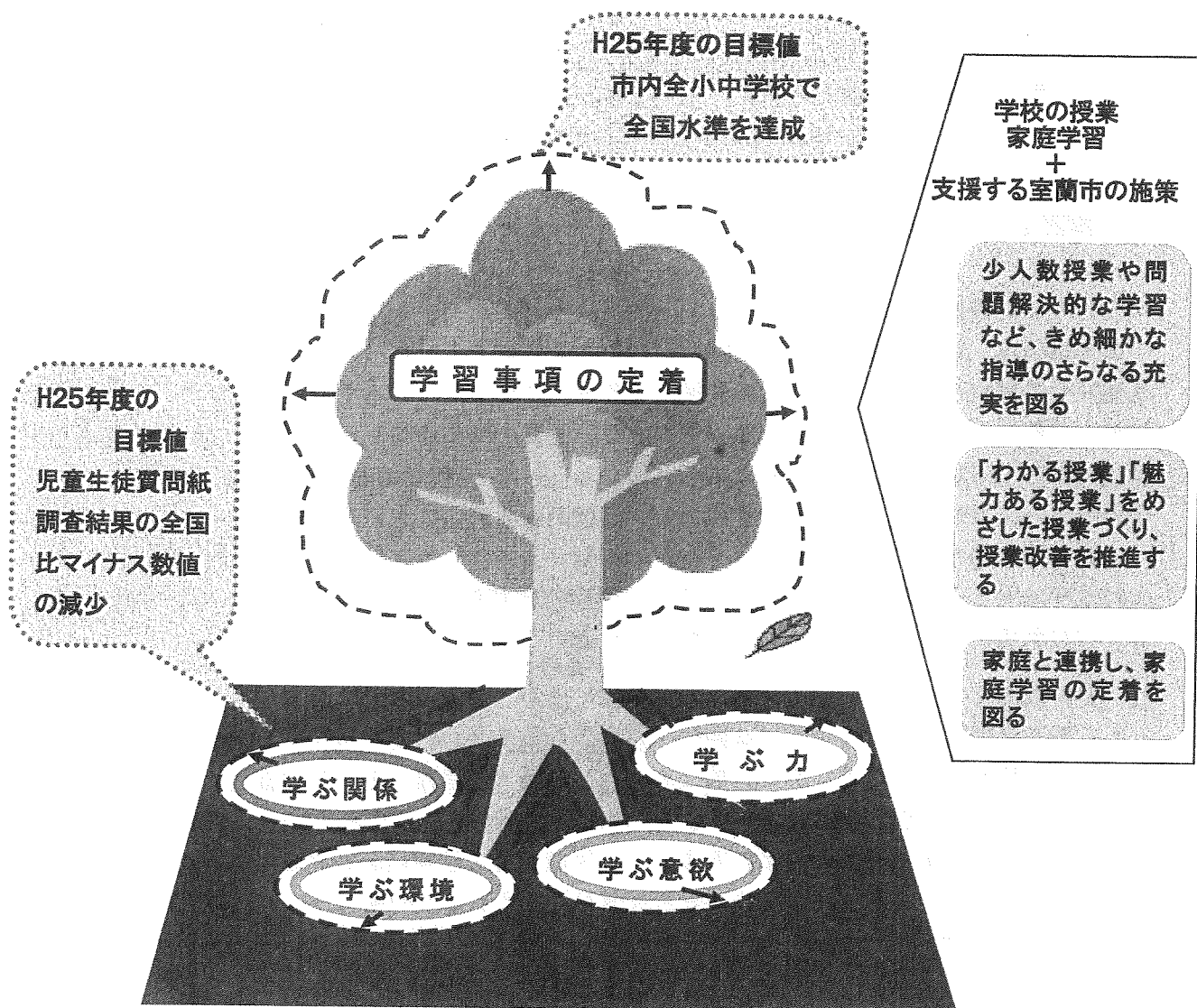
室蘭市教育委員会では、「学習事項の定着」と「本市の児童生徒に育みたい4つの力」は、互いに関連しているものと考えます。

そこで、これらの関係を上のイラストのような「学力の樹」のイメージで説明します。

いわゆる学力調査（テスト）で測れる学力である「学習事項の定着」は、「葉」をイメージしています。「葉」が増えるように、児童生徒は新しい学習事項を身に付けていきます。また「葉」には太陽の光が必要で、その光にあたるものが、学校での授業や家庭学習になると考えます。

次に、「児童生徒に育みたい4つの力」は「根」をイメージしています。「根」は樹全体を支える土台になります。「根」がしっかりしなければ、樹は豊かにならず、「葉」も増えません。また、「根」には、水や栄養分が必要で、この水や栄養分にあたるものが、学校での取組や家庭教育、地域との関わりになると考えます。すなわち、「葉」と「根」は互いに大きく関係しており、双方を豊かにすることが「学力の樹」＝「確かな学力」を育成することにつながると考えます。

(3) 学力向上基本計画の目標値



1 研究主題

基礎・基本を身に付け、主体的に学習に取り組む児童生徒の育成
～わかる喜びを味わわせる学習指導の工夫～

—主題設定の理由—

(1) 今日の課題から

21世紀は、新しい知識・情報・技術が社会の全領域での活動の基盤として重要性を増す知識基盤社会の到来や、グローバル化の進展など急速に社会が変化する中で、子どもたちには幅広い知識と柔軟な思考力に基づいて判断することや、他者と切磋琢磨しつつ人々との共生を図るなど、変化に対応する能力や資質が一層求められている。一方、全国学力学習状況調査の結果などから、子どもたちには思考力・判断力・表現力等に課題がみられることが明らかになっている。

これら子どもたちをとりまく現状や課題等を踏まえ、学習指導要領が改訂され、小学校においては本年4月から本格実施となった。今回の学習指導要領においても「生きる力」を継承され、今、学校教育に求められている指針が提示された。

各学校において、児童生徒に生きる力をはぐくむことを目指し、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努めなければならない。その際、児童生徒の発達の段階を考慮して、児童生徒の言語活動を充実するとともに、家庭との連携を図りながら、児童生徒の学習習慣が確立するよう配慮しなければならない。

上記の下線部で示した観点から研究主題を設定することにした。

(2) 本市の子どもたちの実態と課題から

①児童生徒の実態（全国学力・学習状況調査、標準学力調査の結果から）

児童の学力の実態

【国語科の課題】

- 漢字を正しく理解し、文脈に沿って書くこと
- 相手や目的、意図に応じて、必要な情報を関係付けて読み、理由を明確にして話したり、書いたりすること
- 文学的な文章の内容や表現の工夫を理解すること

【算数科の課題】

- 四則計算のきまりや計算の順序を理解し、正しく計算すること
- 図形の面積を計算して求めること
- 応用問題や文章問題において筋道を立てて解くこと



生徒の学力の実態

【国語科の課題】

- 目的や意図、場、相手に応じて、適切に分かりやすく文章に書くこと

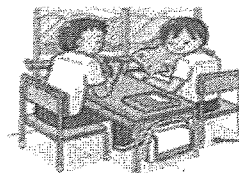
○文法や語句に関する知識

【算数科の課題】

○文字や指数の意味を理解し、確実に計算すること

○図形の基本的な性質を理解し、面積や体積を求めること

○応用問題や文章問題において筋道を立てて解くこと



児童生徒の学習・生活習慣の実態質問紙

○全国に比べて、平日のテレビゲームをする時間が2時間以上である児童生徒の割合がかなり高い。

○全国に比べて、家で学校の宿題をする児童の割合が低い傾向にあり、生徒の割合についてはかなり低い。

○全国に比べて、平日家で1時間以上勉強する児童の割合がかなり低い傾向にあり、生徒の割合は低い。

○全国と比べて、学校の規則を守っている児童の割合が減少傾向にあり、生徒についてはかなり低い。

○全国と比べて、朝食をきちんと食べている児童の割合が低い。

○全国と比べて、朝食を家の人と一緒に食べている児童の割合が低い。

○全国と比べて、本（マンガや雑誌をふくまない）を読んでいる児童の割合がかなり低い。

② 児童生徒の課題解決

基礎的・基本的な学習内容の習得と活用

これまでの調査結果から本市の状況としては、中学校において全国平均との差が縮まっている状況にあるが、毎年、同じ傾向の問題（漢字の書き取り、文章の記述、四則計算、図形の問題など）につまづく傾向がみられるため、学習内容の系統性等を踏まえた上で、各学年における基礎・基本の定着と身に付けた基礎・基本を繰り返し活用する指導を充実する必要がある。

学 習 意 欲

本を読んだり、自ら計画を立てて進んで勉強したりする児童の割合が低く、小中学校ともに規範意識の低下傾向にある。

子どもの成長には、健やかな体と心の成長、規範意識の体得が必要であり、これを基盤として、学ぶ意味や楽しさを感じさせる工夫を図り、生涯にわたって学び続けることができる力・意欲の育成が重要である。

学 習 習 慣（生活習慣）

1日1時間以上学習する児童生徒の割合が低く、宿題をよく出している学校の割合が低い傾向にあることから、子どもたちに主体的に学習に取り組む態度を養うため、家庭学習の充実を図る必要がある。

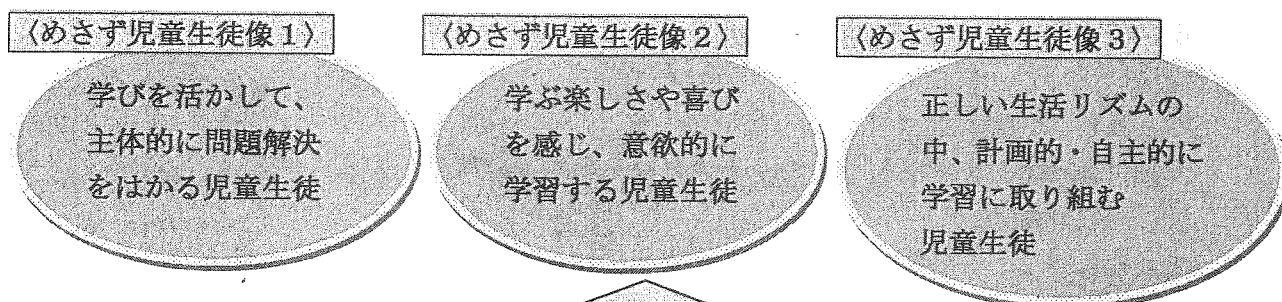
また、1日に2時間以上テレビゲームをする児童生徒の割合が高く、朝食をとらない児童も多いことから、子どもたちに規則正しい生活リズムで生活させ、生活や学習への意欲及び自尊心を持たせる必要がある。

以上のような3点の観点から研究主題を設定することにした。



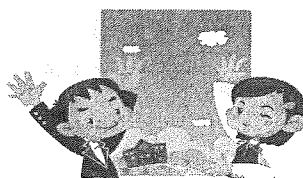
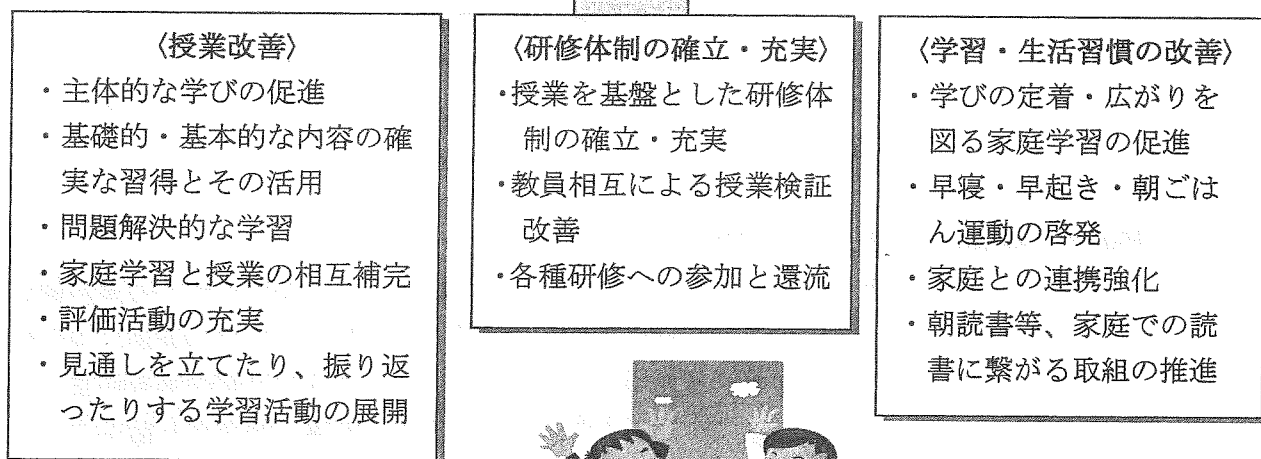
2 めざす児童生徒像

(1) 本市のめざす児童生徒像を次のように設定した。



(2) めざす児童生徒像にせまるコンセプト

めざす児童生徒像にせまる3つの視点



3 研究仮説（平成25年度）

〈仮説 1〉

課題を追究する段階において、既習事項を活かした考えを互いに表現し合うことにより、主体的に問題解決を図ることができるようになるであろう。

(1) 「課題を追求する段階」について

児童生徒が主体的に問題解決を図るに当たり、問題解決に向けた学習過程を、「つかむ」、「見通す」、「追究する」、「まとめる」の4段階と押さえ、研究を進めることとした。

一昨年度の研究では、問題を「つかむ」段階に焦点を当て研究を進め、本時の目標に応じた学習課題に導く発問を工夫したり、単元の指導事項や児童生徒の学習内容を明確化したりすることで、主体的に問題解決を図る姿が見られた。

昨年度の研究では、「見通す」段階に焦点を当て研究を進め、使うべき既習事項を明確にさせたり、シラバスを作成したりすることにより、児童生徒が活動の見通しをもって学習することができ、単元全体の流れや既習事項を振り返り、問題解決に役立てている姿が見られた。

本年度の研究では、「追究する」段階に焦点を当てて研究を進めることにした。

「追究する」段階は、自ら見通した問題解決の方法を主体的な活動を通して検討し、思考力・判断力・表現力等を養うための重要な段階であると考えた。

(2) 「既習事項を活かした考え」について

「既習事項を活かした考え」とは、児童生徒が問題解決への見通しをもつ際に、自らがこれまでに習得した知識・理解や生活経験等を踏まえ導き出した自分なりの考えであると押さえた。

既習事項を想起させることにより、児童生徒が問題解決への糸口を見つけ、「この問題はわかりそうだ」という意識をもてることが、主体的な問題解決へとつながる。

児童生徒一人一人が既習事項を活かし、自分なりの考えをもつことができるよう、教師側は本時のねらいを明確にし、活用させたい既習事項を明確化させるとともに、問題設定の場面で、既習事項や生活経験が想起しやすい場面や問題を提示していきたい。

(3) 「考えを互いに表現し合うこと」について

児童生徒一人一人がその考えを互いに表現し合うことにより、学級の中で全員が発想を共有することが出来る。また、必要に応じて、発想の転換を促すような他の児童生徒の発表により、発想が広がり、発想の楽しさや活用する喜びを実感できるようになる。授業中で互いに表現し合う場面を設定することにより、児童生徒に創造的・論理的に考えたり表現したりする力を身につけさせたい。

〈仮説 2〉

課題解決の場において、言語活動を通して学びを深めることにより、学ぶ楽しさや喜びを感じ、意欲的に学習するであろう。



(1) 「課題解決の場」について

課題解決の場とは、児童生徒が自力で問題を解決したり、互いの考えを交流したりする場とおさえる。つまり、問題解決的な学習過程（つかむ・見通す・追究する・まとめる）においての追究する段階での自力解決の場、集団解決の場とおさえる。

(2) 「言語活動」について

言語は知的活動（論理や思考）の基盤であるとともに、コミュニケーションや感性・情緒の基盤であるとされている。このような言語の果たす役割を踏まえた活動を言語活動とおさえる。

(3) 「学ぶ意欲」について

学ぶ意欲とは、児童生徒が学習に主体的に取り組もうとする心の働きであるとおさえる。具体的には、知的好奇心や、挑戦心、向学的欲求などがある。

〈仮説 3〉

家庭と学校の連携を強化する手立てを明らかにし、学習・生活習慣の改善点や具体的な方法を互いに共有し活用することにより、児童生徒の学習・生活習慣の醸成が図られるであろう。



4 研究内容（平成 25 年度）

〈研究内容 1〉

「既習事項を活かした
指導過程の工夫」

- 「指導と評価の一体化を図る、学習計画の作成・活用」について
- 「既習事項を活かし、学び合いを通して課題を追究する場の工夫」について

〈研究内容 2〉

「言語活動を活かした
学習形態の工夫」

- 教科の特性を活かし、児童生徒の実態に即した言語活動の工夫
- 児童生徒が身につけた力が、実感できるような授業展開の工夫

〈研究内容 3〉

「家庭教育の学習・
生活習慣の
醸成に向けての工夫」

- 児童生徒の学習習慣に関わる調査と分析
- 児童生徒の「家庭と学習の連携による学習・生活習慣の醸成」に向けて、家庭に奨励すべき内容の選定

5 研究の事業（平成 25 年度）

【研究部】

- ① 確かな学力の育成に関わる授業づくり
 - ② 「授業の改善」を目指した公開授業研究会の開催
- ・所員公開 2 授業
 - ・市内公開 2 授業

- 仮説・研究内容の作成
- 仮説検証の計画
- 所員公開授業者
- 市内公開授業者
- 研究成果の整理
- 今年度のまとめ
- 次の研究の方向性の確認

【事業部】

- ① 研修講座の企画運営
- ・長期休業中 4 講座
 - ・課業日 2 講座

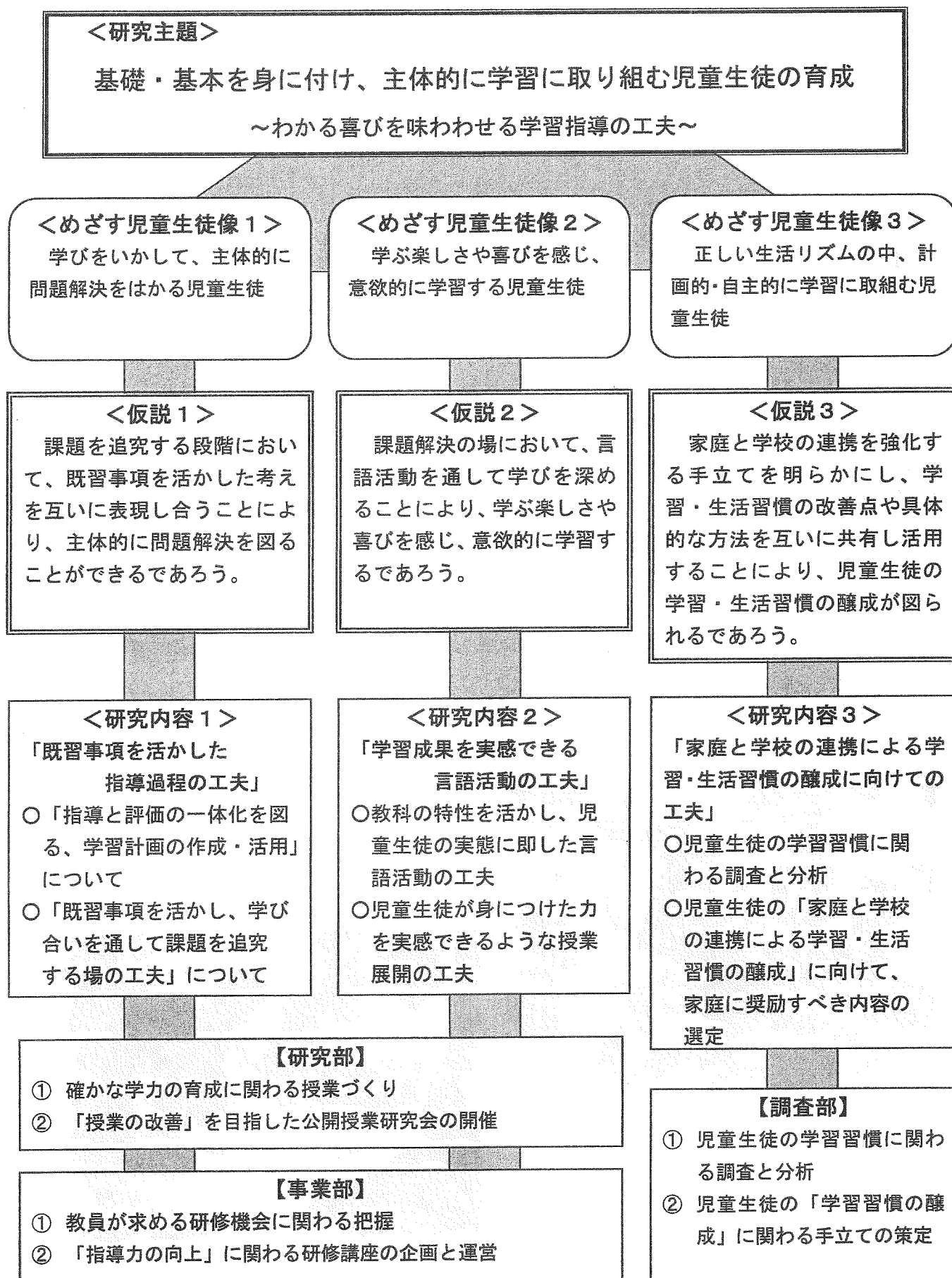
- 教員のニーズの把握
- 教育課題の把握・分析
- 研修の企画
- 研修成果の整理
- 今年度の事業のまとめ
- 次の研究の方向性の確認

【相談部】

- ① 児童生徒の学習習慣に関わる調査と分析
- ② 児童生徒の「学習習慣の醸成」に関わる手立ての策定

- 仮説・研究内容の作成
- 仮説検証の計画
- 各種学力調査の分析
- 「学びのすすめ」のリーフレット作成
- 今年度の事業のまとめ
- 次の研究の方向性の確認

7 研究の全体構想（平成 25 年度）



6 研究の推進計画

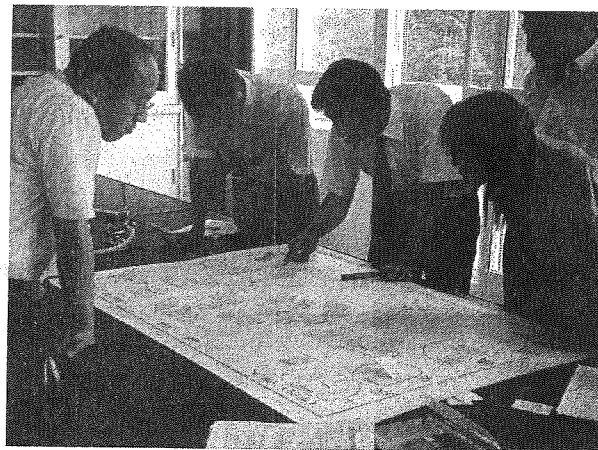
○新学指導要領が小学校において完全実施された平成23年度より3年計画で研究を推進する。

○研究の手順が明らかにするため、P【計画】→D【実施】→C【評価】→A【改善】のマネジメントサイクルの視点を重視し計画する。

	1年次（平成23年度）	2年次（平成24年度）	3年次（平成25年度）
P l a n 【計画】	☐ 研究課題の把握 ☐ 研究主題の設定 ☐ 研究仮説の設定 ☐ 研究内容の具体化 ☐ 検証計画の樹立	☒ 推進計画の見直し ☐ 研究仮説の修正 ☐ 検証計画の樹立	☒ 推進計画の見直し ☐ 研究仮説の修正 ☐ 検証計画の樹立
D o 【実施】	☐ 検証のための実践	☐ 検証のための実践	☐ 検証のための実践
C h e c k 【評価】	☐ 研究結果の整理 ☐ 初年度のまとめ ☐ 成果と課題の発表	☐ 研究結果の整理 ☐ 2年次のまとめ ☐ 成果と課題の発表	☐ 研究結果の整理 ☐ 研究全体のまとめ ☐ 成果と課題の発表
A c t i o n 【改善】	☐ 推進計画の見直し	☐ 推進計画の見直し	☐ 次の研究の方向性の確認



検証のための実践（モデル授業2より）



ワークショップ型の研究協議

〈資料〉 学習指導案の形態について

第○学年 ○○科学習指導案

日 時 平成25年○○月○○日(○)

第○校時 10:35～11:20

児童・生徒 ○○学校 ○年○組

男子○名 女子○名 計○名

指導者 研究員 ○○ ○○

1 単元名・題材名 「○○○○」 本時 ○/○

2 単元・題材の目標

3 単元について

(1) 単元観

本単元では、・・・という活動の中で・・・ということを主なねらいとする。また、・・・ということなどもねらいのひとつである。(最初の項目は、一般的な「単元観」と呼ばれているもの。この単元で、どのような活動を取り入れ、どんなことに触れさせ、そして、どのような力を育てることをねらうのかといったことを記述する。したがって、「○○のような活動の中で、○○に触れさせながら、○○することを主なねらいとする」というような表現が見られる。)

(2) 児童観

本学級では、○月に行った児童アンケートによると、・・・。普段の授業では、・・・という姿も見られる。その反面、・・・という児童もあり、・・・。また、これまで○○のような言語活動を展開してきた。今回は○○の言語活動に取り組む機会としたい。(2番目の項目は、「児童観」と呼ばれるもので、児童の実態を書くことになる。本学級児童の授業の中での様子や算数科におけるレディネステストやアンケートの結果や興味関心などについて表記する。また、研究内容(言語活動の様子など)についても表記する。)

(3) 指導観

そこで、指導に当たっては、まず第一に・・・ということに留意したい。・・・したり、・・・したりさせる中で、・・・という意欲を高めるような工夫をする。そして、・・・。(3番目の項目は「指導観」と呼ばれるもので、指導上の留意点や手立てなどを書く。つまり、「こんな単元だから(単元観)、そして、「こんな子どもたちだから(児童観)」→「このような指導をしたい(指導観)」という構成になる。)

4 単元の系統

(※学年と単元名のみでよいと思います。)

(※低学年は高学年へのつながりを、高学年は中学校へのつながりを表記する。)

5 単元の評価規準

(例) 国語科 小学校第3学年 単元名「すきな場面をしょうかいしよう」

ア 国語への関心・意欲・態度	イ 読む能力	ウ 言語についての知識・理解・技能
紹介したい本について説明するために、本を繰り返し読むなどして、改めて味わったり新たな面白さに気づいたりしながら読もうとしている。	自分が読んだ本の面白さを説明するために、場面の移り変わりの印象的なところや主人公の性格、気持ちの変化をとらえて読んでいる。	指示語や接続語は、文相互の関係、段落相互の関係を端的に示す手がかりになることを理解している。 新出漢字を文や文章の中で書いたり読んだりしている。

(例) 算数・数学科 中学校第2学年 単元名「式の計算」

ア 数学への関心・意欲・態度	イ 数学的な見方や考え方	ウ 数学的な技能	エ 数量や図形などについての知識・理解
具体的な事象の中にある数量の関係をみだし、計算しようとする。	数量関係について、文字を用いて表現したり、目標に応じて式を変形したり、式の意味を読み取ったりすることができる。	文字を用いた式に表現したり、式の意味を読み取ったり、計算したりすることができる。	単項式と多項式の意味や整式の加法、減法及び単項式の乗法、除法の仕方を理解し、知識を身に付けている。

6 単元・題材の指導計画

(例) 国語科 小学校第4学年 単元名「読んで考えたことを話し合おう」

時間	単位時間の目標	○主な学習活動 *言語活動	■評価規準 □評価方法
1	学習のねらいを確かめ、「感想交流会」に向けた見通しをもつことができる。	○これまでの学習を振り返り、文学的な文章を読む際の視点について確認する。 ○本単元の学習のねらいや「感想交流会」の内容を知り、学習の見通しをもつ。	■物語を読んで、好きなことや心がひかれるところに着目しながら感想を述べようとしている。【関】
2 (本時)	『「ごんぎつね」を読み、印象に残った場面を選ぶことができる。』 『「ごんぎつね」を読み、印象に残った場面を選ぶことができる。』	○「ごんぎつね」を読み、印象に残った場面を選ぶ。 ○難語句について確認する。 *物語を読み、印象的な場面を選ぶ。	□発言、話し合いの様子 ■「漢字仮名交じり文」の表記に気を付けて、文や文章を読んでいる。【言-①】 □音読
3	場面の移り変わりや叙述に着	○叙述に即して場面の移り変わりや登場	■登場人物の性格や気持ち

(例) 数学科 中学校第3学年 単元名「平方根」

時間	単位時間の目標	○主な学習活動 *言語活動	■評価規準 □評価方法
1 (本時)	【問題】 方眼紙に面積が、 1cm^2 、 2cm^2 、 4cm^2 、 5cm^2 となる正方形をかきましょう。 有理数では表せない数の存在に気づき、平方根の必要性和意味を理解することができる。	○それぞれの正方形を作図する方法を考える。 *1辺の長さの求め方をノートにまとめ、互いに説明し合う。	■数の平方根の必要性に気づいている。【関】 □ノート、話し合いの様子 ■数の平方根の必要性和意味を理解している。【知・理】 □ノート、発言
2	数の平方根の特徴をまとめ	○4や5などの平方根を求めることを	■数の平方根の性質を考え

7 本時の学習

(1) 本時の目標と評価規準

(例) 算数科 小学校第5学年 単元名「平行四辺形と三角形の面積」

目 標	既習の図形の面積の求め方を活用して、三角形の面積の求め方を考えることができる。
評価規準	■長方形や平行四辺形の面積の求め方を活用して、三角形の面積の求め方を考えている。【数学的な考え方】

(例) 国語科 中学校第3学年 単元名「自分のよさをPRしよう」

目 標	効果的な話し方を工夫した自己PRをすることができる。
評価規準	■模擬面接の自己PRを通して、自分の人柄や考えなどを初対面の相手に伝わるよう工夫している。【関-②】 ■初対面の人に自分のよさを伝えるために話し方や言葉遣いを工夫したり、聞き手の反応に応じて言い換えたりしながら自己PRをしている。【話・関-②】

(2) 本時の展開

(例) 算数科 小学校第5学年 単元名「平行四辺形と三角形の面積」

過程	○主な学習活動 *言語活動 ・予想される児童の発言	◇教師の主な働きかけ	■評価規準□評価方法▲努力を要すると判断される児童への手立て
導入	【問題】との三角形のうち、どちらの面積が大きいですか ○解決の方法の見通しをもつ ・面積を比べるための方法を考える必要がある ・これまでの学習を生かして三角計の面積の求め方を考えてみる。	◇底辺と高さがそれぞれ等しい三角形と直角三角形を提示する。 ◇既習の図形の面積の求め方を生かして、新たな図形の面積を求める意欲を高めるよう促す。	
展開	○三角形の面積の求め方について、考えをノートにまとめる。 〔自力解決〕 ・方眼の数を数える。 ・～ *同様の考え方の少人数のグループ編成し説明し合う。 〈グループA〉 三角形の高さが半分になるように切ったら平行四辺形ができた。 〈グループB〉～ 〈グループC〉～	◇既習事項を基に、図や言葉、式を用いて、三角形の面積の求め方を考えるように促す。 ◇図を操作しながら考えることができるように、方眼紙と切り取った三角形を提示する。 ◇T.Tを活用し、各グループで視点を明確にした話し合いを通して、三角形の面積を求める公式を考えるよう促す。 〈話し合いの視点〉 グループA：三角形の高さ グループB：2つの三角形	■長方形や平行四辺形の面積の求め方を活用して、三角形の面積の求め方を考えている。【考】 □ノート、発言 ▲既習の長方形や平行四辺形を想起できるよう具体物を提示する。
終末	*各グループの考え方を説明する。〔集団解決〕 ・「$\div 2$」の意味が違う。～ ○練習問題に取り組み、面積を求める過程を確かめる。 ○学習内容の理解の程度を確かめ、家庭学習の見通しをもつ。	◇各グループから、考え方の共通点や相違点を考えるよう促す。 ◇児童の考えを生かし、三角形の面積の求める公式をまとめる。 ◇練習問題の理解に応じて家庭学習の問題を提示する。	

※評価規準・評価方法・努力を要すると判断される児童への手立て（指導と評価の一体化より）については、本時の展開の中で位置付ける。

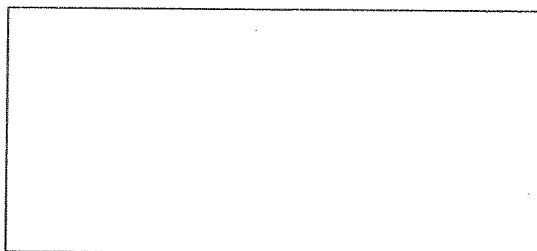
(例) 国語科 中学校第3学年 単元名「自分のよさをPRしよう」

過程	○主な学習活動 *言語活動 ・予想される生徒の発言	◇教師の主な働きかけ ・留意事項	■評価規準□評価方法▲努力を要すると判断される児童への手立て
導入	○第1時に計画した学習のめあて及び第2時で考えた効果的な話し方と模擬面接の進め方を確認する。 ・質問に対して誠実に応えたい。 ・TPOに合った言動に注意しよう。 模擬面接で自分のよさを伝える効果的な話し方を考えよう	◇ワークシートを振り返り、自分のめあての達成を図るよう促す。 ◇模擬面接の進め方を説明する。 ・予め模擬面接の順番や座席配置等の準備をさせ、活動時間を保証する。	■模擬面接の自己PRを通して、自分の人柄や考えなどを初対面の相手に伝わるよう工夫している。 【関②】 □学習の観察 ▲ワークシートやノートで

	〈模擬面接の進め方（例）〉 1 面接時間3分、交流時間3分で、3人グループ内で役割を交代する。 2 面接時の様子をデジタルカメラの動画で撮影する。 3 質問役は、動機や抱負、自己PRなどの質問を行う。（質問集参照）・・・		面接の目的や条件を確認させ、できていることと改善点を明確にする。
展開	○ワークシート②を活用しながら、自己PRスピーチの練習をする。〔個人〕 *模擬面接を行う。（1人6分×3人） 〈相互評価の観点（例）〉 ア聞き手を意識した声の大きさや間がある。 イ表情や姿勢、言葉遣いは面接に適している。 ウ聞き手を意識し、面接者のよさや人柄が伝わる話し方の工夫をしている。	◇5つの言語意識を踏まえ、学習のめあてを意識した自己PRとなっているかを見取り、助言する。 ◇本時の課題を再確認し、模擬面接後には効果的な話し方についてまとめることを説明する。 ◇相互交流では、質問役の生徒も気がついた点を指摘するようにする。また、必要に応じて、VTRを活用し、自己評価をしながら、交流するように促す。	■初対面の人に自分のよさを伝えるために話し方や言葉遣いを工夫したり、聞き手の反応に応じて言い換えたりしながら自己PRをしている。【話・聞-②】 □学習の観察、ワークシートの記述 ▲他の生徒の具体的な様子や内容を紹介するなどして自己PRの改善の方向性を示す。
終末	○ワークシートを活用し、自分の学習のめあてに基づいた振り返りをするとともに、効果的な話し方のポイントを考え、ノートにまとめる。 ・TPOに適した言動をする。 ・聞き手の心を動かすため、具体例を挙げ、学んだことなどを付け加える。 ・～	◇模擬面接時に聞き手を意識し自分のよさや人柄を伝える話し方の工夫を行っていた生徒や、第1時と比較し効果的に改善できた生徒をVTRで紹介し、～ ◇効果的な話し方について自分の考えをもたせ、ノートに記述するよう促す。 ・自己評価の低い生徒や学習のめあての達成が図られなかった生徒は休み時間や放課後等に補充を行うようにする。	

8 座席表

9 板書計画（※板書・掲示物等黒板のレイアウトを示す。）



10 資料（※ワークシート・ふりかえりカードなどの資料があったら、載せる。）

